# 水と緑あふれる地球のために

土壌拡散処理システム

SRS-CV21 施工要領書

株式会社 エスアールエスディービー社

#### 工事を始める前に

- 1. 必要材料
  - イ)流入桝(溜め桝)

口)流入管配管材料

φ 6 5 パイプ

(おおかね1.0m)

φ 6 5 エルボ 1 個 (1 列に 1 個必要)

φ 6 5 キャップ 1 個 ( "

ハ) 洗浄管接続用材料

φ 5 0 パイプ

(おおむね0.2m)

 $(\phi 20 \sim \phi 50 \text{ stata2. 0m})$ 

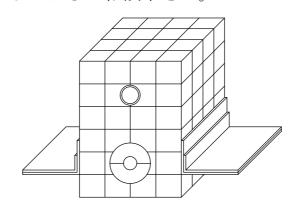
異径ソケット 1個(配管用パイプが 650以下の場合

必要)

接着剤

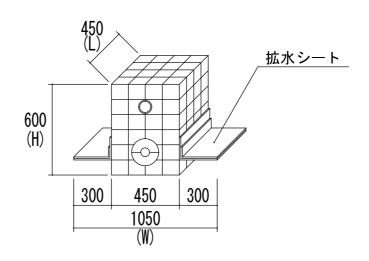
- 2. 装置設置における注意点 (千葉県浄化槽取扱指導要綱を参照)
  - イ) 隣地境界から1.0m以上、建屋基礎部から1.0m以上。 井戸から5.0m以上、擁壁まで1.5m以上。 がけについては浄化槽指導要綱を参考にして下さい。
  - ロ) 雨水の流入がない所に設置して下さい。また降雨時の施工は 行わないで下さい。
  - ハ)申請には土質調査書が必要になります。事前に現地透水試験 及び地下水位の調査を行って下さい。
  - 二)地下水位及び遊水が装置底面より1.0m以内にある所には 設置しないで下さい。

※不明な点がありましたらご相談下さい。



1. 装置の仕様・形状

ユニットの形状 SRS-CV21-EPSタイプ 450 (W) × 450 (L) × 600 (H)

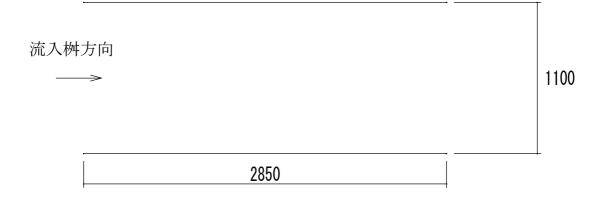


- 2. 位置出し
  - イ) 合併浄化槽5人槽としての施工

1000L/人·日÷200L/基

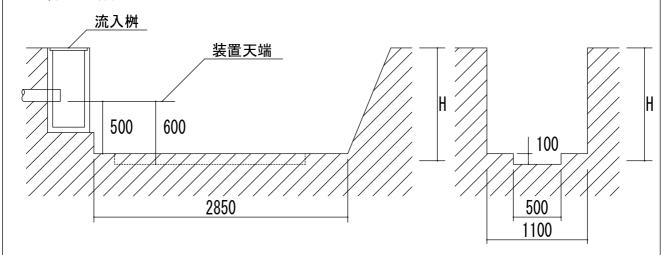
=5基として施工説明

ロ) ユニット幅 (0.45 m) +拡水シート幅  $(0.3 \times 2 = 0.6 m)$  = 1.1 mを目安にして下さい。(掘削断面図参考)

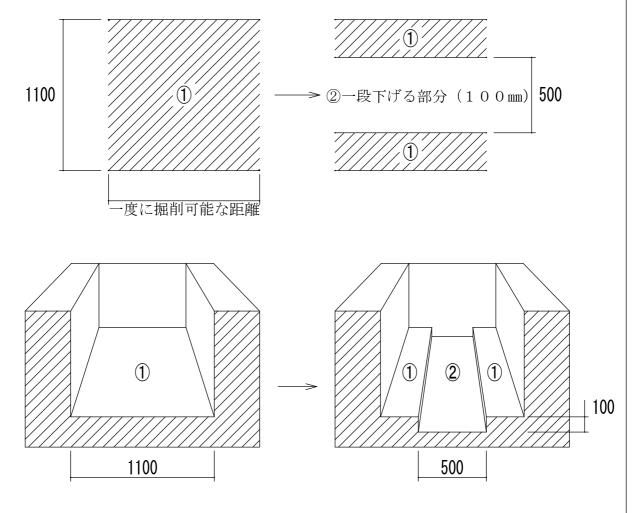


※装置終末に検知管がセットされますのでユニット5基分(2.25m)+0.5~0.6mにて位置を決定して下さい。

#### 3. 掘 削



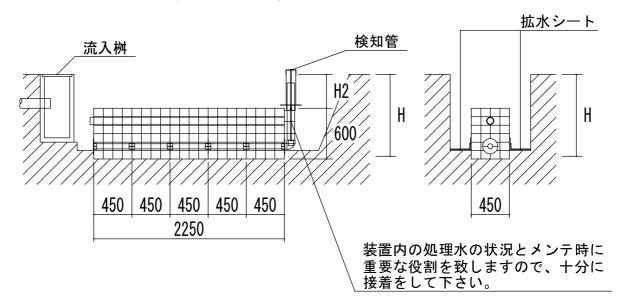
- イ) 床付け寸法は浄化槽の放流管底に合わせて決定して下さい。
- ロ) 掘削深が深くなる場合は、浄化槽と流入桝の間に桝を設けてポンプを セットし、ポンプアップにての施工となります。
- ハ) 掘削方法は一度に掘削可能な距離毎に下図の様に、二段堀をして下さい。



※掘削底部の不陸整正は確実に行って下さい。

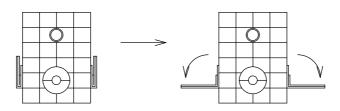
拡水シート部分①は水平又は、先の部分が下がり気味に不陸整正を行って 下さい。

- 4. ユニットの設置(土被り深H2は浄化槽放流管底にて調整)
  - イ) ユニット接続方法は No6 参照 ユニットの設置向きは装置下部のパイプが受口になっている方を流入桝 側にして設置して下さい。



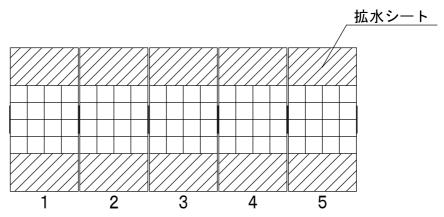
※検知管は必ずユニット底部 (φ50のパイプ) に接続して下さい。

ロ) 拡水シートはユニットと結束してありますので、結束部を切り拡水 シートを広げて設置して下さい。



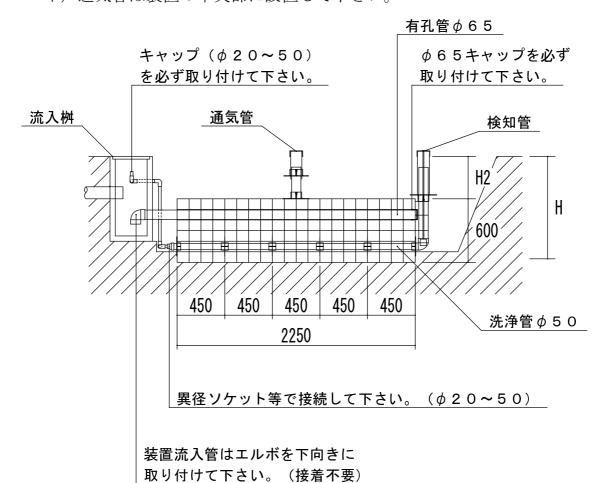
※拡水シートは水平又は、先の部分が下がり気味に設置して下さい。

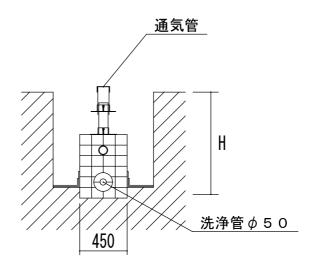
ハ) 拡水シートはユニットを1基設置する毎に広げて設置して下さい。



※拡水シートを広げる部分には乗らないで下さい。

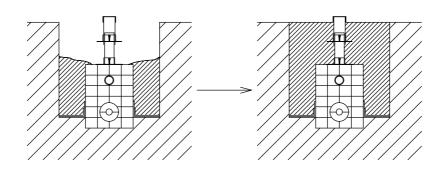
5. 流入桝配管、通気管の取付、洗浄管の設置 イ) 通気管は装置の中央部に設置して下さい。

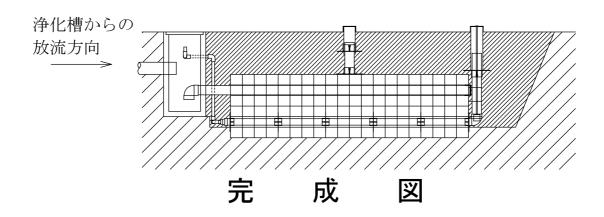




## 6. 埋め戻し

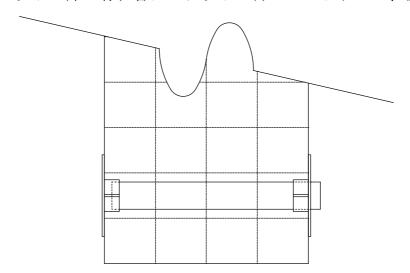
必ず両側面より埋め戻しをして下さい。



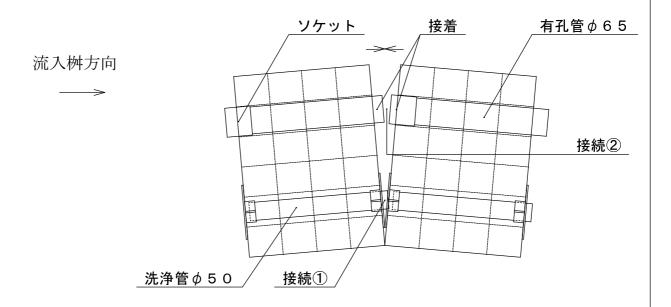


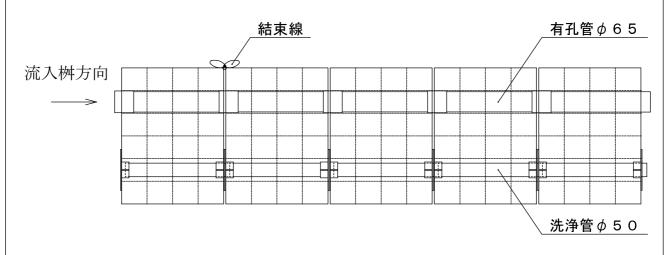
## 7. ユニット間の接続

- イ) ユニット下部の洗浄管は受口・差口になっています。
- ロ) ユニット上部の有孔管はソケットが付いていますので、接着して下さい。



ユニットを下図の通り接続して下さい。 ユニットの上部を結束線等によって結束して下さい。





## 8. 検知管の説明

検知管のアクリル棒部分に延長用のビニールホースがついてますので、装置 深さによって、ビニールホースの長さを変える事が可能です。

(最大400mm)

